

令和3年5月18日

新型コロナウイルス強毒化、感染急増の状況下、住民の皆様へ

いわき医師会・会長 木村守和

いわき市医師会から、住民の皆様へ呼びかけます。

A ウイルスの変異と強毒化について

- ① ウイルスは変異しており、これまでと違う強毒性の感染症であると認識すべきである。これまでより早い発症後4~5日目に悪化することが多く、治るまで時間がかかる。
- ② 若い人も感染しやすく、重症化する。学生・その他若い人は、肝に銘じて、感染しない・感染させない行動を遵守するべきだ。
- ③ 感染高齢者は入院期間が長く、病床がひっ迫する。若い人が感染させないように。

B ウイルスの性質を知り、対策の基本に戻るべき

- ① 新型コロナウイルスは、人の飛沫などから人へ感染する。みんなが努力しても、一人がウイルスをまき散らすと感染爆発となる。
- ② 三密でなく一密でも感染するので、注意が必要。飲食店利用・バーベキュー・飲み会などで感染拡大がある。家での食事でも久しぶりの方と会食しないなど、注意が必要。生活のあらゆる場面で、不要に人と会うなどの感染の機会を減らすべきだ。
- ③ 今から感染を抑制する行動ができれば、2~3週後に感染者を減少させることができる。今すぐ感染抑制に向けて住民全体で努力していく必要がある。

C いわきの住民は、医療状況について理解を

- ① 病床利用率が90%まで上がり、感染をこれ以上広げてはいけない状況。今でも手術の延期などなされているが、感染が拡大するとさらに通常医療に影響が出る。助かる病気も助からなくなる。
- ② いわきの勤務医が少ない中、複数の病院への入院とホテル宿泊療養が連携する体制で頑張っている。感染者は基本的には入院かホテル宿泊とし、自宅療養は極力避けている。やむを得ず自宅療養となることがあり、医師会として診療体制を検討している。

D ワクチン接種に最大限協力していく

- ① いわき市は「個別接種を中心に集団接種を補完的に設定する」とし、医師会はこれに協力してきたが、ここにきて集団接種を2倍以上に設定する必要性が生じている。
- ② いわき市医師会は、新型コロナウイルスから住民の健康を守るため、個別接種の数を少しでも増やすほか、市からの集団接種協力依頼に対して積極的に協力していく。

E 最後に、住民の皆様にお話ししたいこと

- ① 自らの命・家族の命・友人の命を守るため、感染対策に努める必要がある。
- ② 医療体制は、住民が大切に守っていかねばいけない宝物だと思う。
- ③ 皆さんの感染対策行動が医療体制を守り、自分たちの命を守ることにつながる。

地域全体で取り組めば、新型コロナウイルス感染者を減らすことが出来ます。
新型コロナウイルス感染対策に、一丸となって取り組んでいきましょう。